

R I C O B

創立23周年記念列車特集号

14



大阪電気通信大学鉄道研究会OB会機関誌 14号

R I C O B 事務局 発行

ご案内	3
イラストマップ	4
OB会長あいさつ	松井 俊樹 5
現会長のあいさつ	三瀬 真樹 6
イベントスケジュール	7
ふれあいSUN IN号車案内	9
キロ29 503 形式図	10
創立23周年記念列車 運転時刻	11
創立23周年記念列車 ダイヤ	12
創立23周年記念列車 参加名簿	14
記念列車が走るまで	麻田 成彦 17
てっけんはじめ物語	近藤 文夫 20
大阪電気通信大学 鉄道研究会 歴史年表	廣瀬 渉 24
あとがき	編集部 31

ご 案 内

本日は「ふれあいSUN IN」号にご乗車いただきありがとうございます。
この列車は、大阪発 東海道線 草津線 関西線 経由 湊町行き 臨時団体
列車「大阪電気通信大学 鉄道研究会 創立23周年記念列車」でございます。
車両は3両編成で、大阪駅での先頭から3号車、2号車、1号車の順になって
おります。途中の柘植駅から進行方向が逆になります。全車グリーン車のお座
敷列車で、各車にカラオケビデオおよびソファを設備しております。トイレは
1号車と3号車の連結側でございます。途中下車可能な駅は、柘植、伊賀上野、
笠置の3駅です。なお列車運行の都合上、長時間停車してもドア扱いをせず、
下車できない駅もありますのであらかじめご了承ください。終点 湊町 到着は
18:04 の予定でございます。

車内でのご案内は、下記 運営委員 が担当いたしますので、ご不明な点がご
ざいましたらなんなりとお申し付けください。また、いくつかイベント等を予
定しておりますので、その時は運営委員の指示にご協力をお願いいたします。

代 表 :	松井 俊樹	
総 務 :	麻田 成彦	山内 祐
1号車 :	浅川 誠	
2号車 :	三瀬 真樹	
3号車 :	廣瀬 渉	
全 車 :	谷口 弘行	武井 宏樹

予定イベント ◎ 2号車 ◇ 各車 ☆ 車外 △ 各車と2号車

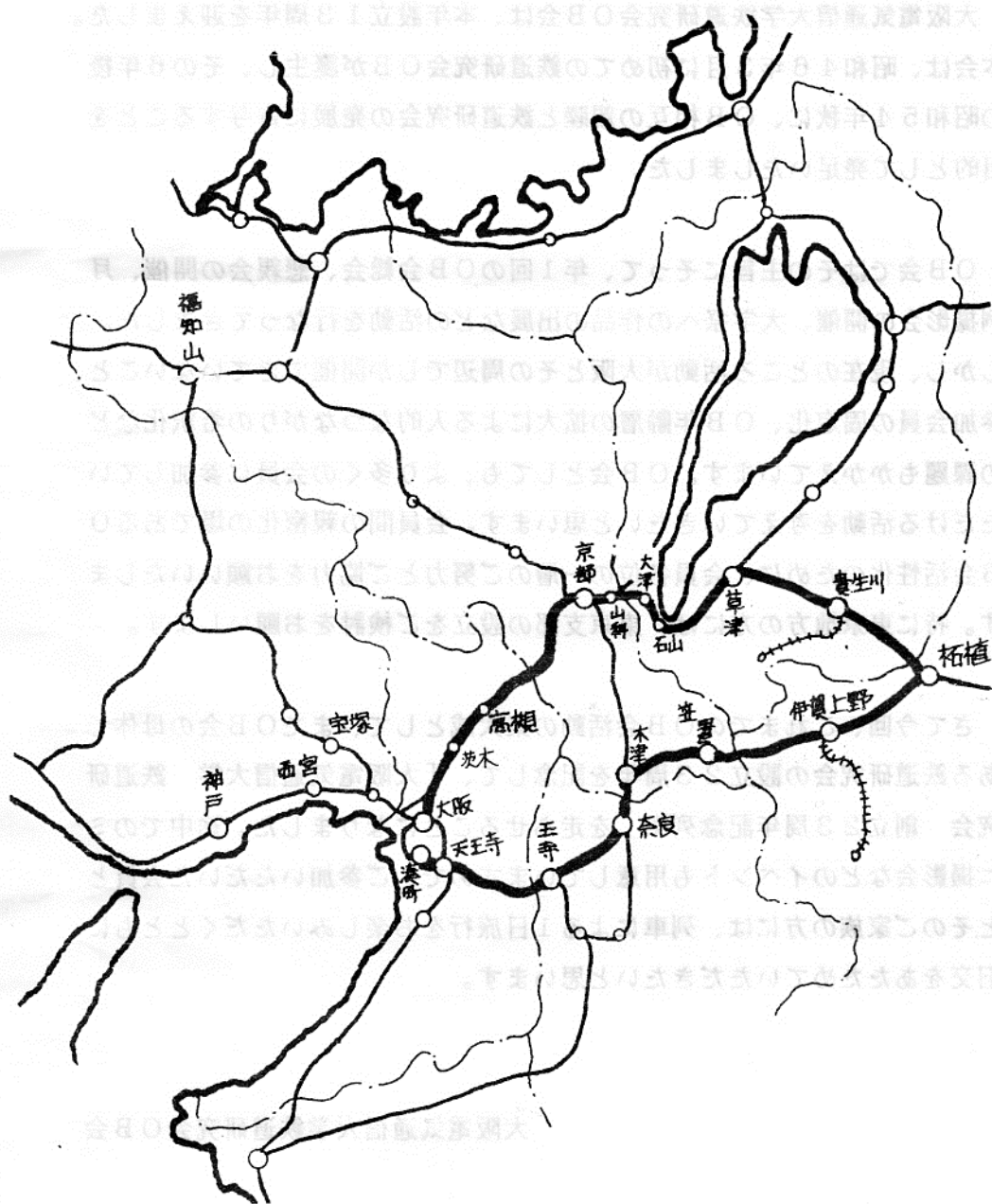
◎ セレモニー	OB会長・顧問・現役会長 挨拶、記念品贈呈、講話
◎ 展示	機関誌「まくらぎ」、会員名簿、部室アルバム等
◎ 運転会	Nゲージ組み立て線路でお座敷運転
◎ 写真鑑賞	撮影会等で会員撮影の作品を展示鑑賞
◇ ビデオ上映	オリジナル撮影、市販ビデオ 等 各車で自由に
☆ 撮影会	伊賀上野駅付近にて 近鉄伊賀線撮影会
☆ 記念撮影	公式全員記念撮影 伊賀上野駅 笠置駅
△ クイズ大会	貴生川～柘植間で解答 正解発表は木津駅

途中下車駅での改札は、一応団体行動をお願いします。バッチ等を証明に
して出入り自由にしてもらえる可能性はありますが、あくまで団体であるこ
とを基本にして行動してください。

それでは列車の旅をごゆっくりお楽しみください。

大阪電気通信大学鉄道研究会
大阪電気通信大学鉄道研究会OB会

イラストマップ



OB会長あいさつ

大阪電気通信大学鉄道研究会OB会は、本年設立13周年を迎えました。本会は、昭和46年3月に初めての鉄道研究会OBが誕生し、その6年後の昭和54年秋に、OB相互の親睦と鉄道研究会の発展に寄与することを目的として発足いたしました。

OB会ではその主旨にそって、年1回のOB会総会、懇親会の開催、月例撮影会の開催、大学祭への作品の出展などの活動を行ってきました。しかし、現在のところ活動が大阪とその周辺でしか開催できていないこと、参加会員の固定化、OB年齢層の拡大による人的なつながりの希釈化などの課題もかかえています。OB会としても、より多くの会員に参加していただける活動を考えていきたいと思います。会員間の親密化の場であるOB会活性化のために、会員各位の一層のご努力とご協力をお願いいたします。特に東京地方の方には、東京支部の設立をご検討をお願いします。

さて今回、これまでのOB会活動の集大成として、またOB会の母体である鉄道研究会の設立23周年を記念して、「大阪電気通信大学 鉄道研究会 創立23周年記念列車」を走らせることになりました。途中でのミニ撮影会などのイベントも用意していますので、ご参加いただいた会員とごそのご家族の方には、列車による1日旅行をお楽しみいただくとともに、旧交をあたためていただきたいと思います。

大阪電気通信大学鉄道研究会OB会

会長 松井 俊樹

現会長のあいさつ

わーい、わーい！23周年だ！！お祭だ～～！

我が鉄道研究会も23周年を迎え、ますます衰退・・・いえ、繁栄の一途をたどっておりますが、23周年を迎えるにあたり、このような企画に参加させていただくとは、とても名誉なことでありんす。

今後とも、鉄道研究会および鉄道研究会OB会の繁栄と幸せを願って

カ・ン・パ・イッ！！

第24代 大阪電気通信大学鉄道研究会会長

山名因幡守（三瀬 真樹）

イベントスケジュール

大 阪 駅	9:40	集合時刻 受付開始
宮原操 発	10:09	列車はヘッドマーク取付けて出庫
大 阪 駅	10:05	集合して改札に入る
.....	10:10	11番線 柱番号11~12のあたりへ
.....	10:18	列車入線
.....		発車まで2分間です。すばやく乗車しましょう。
.....		そこのあなた、写真を撮ろうとして遅れないでね。
大 阪 発	10:20	いよいよ発車です。
.....		荷物を置いて落ち着いたら、2号車に集合
.....		OB会長・顧問・現役会長 それぞれあいさつ
.....		顧問へ記念品贈呈・近藤氏の創設期の話
京 都 着	10:53	1番線
京 都 発	11:00	3304M 新快速 長浜行と同時発車が見られるかも・・・
.....		フリータイム ビデオなど見てもらって結構です
.....		ただし、飲酒は草津までガマンして下さい
草 津 着	11:21	6番線
草 津 発	11:22	お弁当・お茶・飲み物を配布します
.....		車内放送および各号車の係の音頭で、カンパイ！
.....		しばらく御食事タイム
手 原 着	11:30	2743Mと交換
手 原 発	11:33	
三 雲 着	11:45	2745Mと交換
三 雲 発	11:48	
貴 生 川 発	11:55	車内クイズ問題配布
.....		クイズは柘植までに解答しましょう
柘 植 着	12:11	2番線 途中下車可能
柘 植 発	12:42	発車時刻に遅れないように
.....		柘植からは車窓をよく見てね
新 堂 着	12:49	236Dと交換
新 堂 発	12:51	

伊賀上野着 13:02 1番線 途中下車可能

全員記念撮影 Part1 駅前あたりで・

近鉄伊賀線 ミニ撮影会開催

伊賀上野着 13:35 14:35

伊賀上野発 13:42 14:42

発車までフリータイム 車内でゴロ寝も・・・

伊賀上野発 14:50 発車時刻に遅れないように

大 河 原 着 15:11
大 河 原 発 15:18

242Dと交換

車窓を楽しもう

笠 置 着 15:26

全員記念撮影 Part2 列車をバックに

笠 置 発 16:00

加 茂 着 16:08
加 茂 発 16:12

1番線

木 津 着 16:18
木 津 発 17:02

8番線

クイズの正解発表 優勝者に記念品贈呈

奈 良 着 17:11
奈 良 発 17:13

3番線

フリータイムです

関西線電車区間をぶつとばす58系を楽しもう

平 野 着 17:46
平 野 発 17:50

残念ながら快速から逃げきれない

最終イベント 近藤さんの手じめ?

天王寺 発 17:57

湊 町 着 18:04 4番線 終着です。お疲れさまでした。

ふれあい SUN IN 号 車内案内

3 編成 定員 108 名 グリーン車 (定員各車 36 名)

更: 更衣室 床: 床の間 冷: 保冷ケース 洗: 洗面所 カ: ピデオ (VHS)・カラオケ 物: 物置 便: 便所

大阪・湊町方

柘植

1 号車

2 号車

3 号車

運	更	洋	和	入	便	冷	床	カ	物	室	運
転	更	室	室	口	便	カ	カ	カ	物	室	転
室	室	室	室	口	室	室	室	室	室	室	室

車両番号 キロ 59 505

改造種車 (キ)58 1123)

更	カ	和	洋	和	入	冷	口	物	室	運
更	カ	和	洋	和	口	カ	カ	カ	物	室
室	室	室	室	室	室	室	室	室	室	室

キロ 29 503

(キ)28 3006)

入	床	和	洋	物	運
口	カ	室	室	室	転
室	室	室	室	室	室

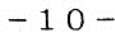
キロ 59 506

(キ)58 1126)

1986年、米子局後藤工場で58系気動車3輛をお座敷列車として改造したもので、1・3号車は純和風、2号車は洋風のスタイルであるが、純和風の中にもソファを設置し、洋風の中にも障子や畳をレイアウトしている。各車にピデオカラオケ装置と保冷ケースもある。2号車には展望連続窓がありワイドな視界が味わえる。

車体外部塗色はベースカラーにクリーム15号、車体下部に緑114号の帯を入れている。また車体バックの風景に映えるように、日本海側には青20号（バックは中国山脈の緑）、山側は赤11号（バックは日本海）の色で大きく「SUN IN」の文字を描いている。最前部と最後部の貫通扉には愛称マークも付いている。和室の通路側座敷下には下足入れがあり、乗車後車両間の移動にはスリッパを利用するようになっている。

約 1/115



臨急気 回9412D	臨気 9724D	臨気 9225D
宮原操 10:09 (11)	京都 (10:53) 11:00	柘植 (12:11) 12:42 (2)
塚本(信) ... 13	山科 ... 06	新堂 49 51
塚本 ... 14	大津	佐那具 ... 57
大阪 18 (10:20) (11)	膳所 ... 12	伊賀上野 13:02 14:50 (1)
	石山 ... 15	島ヶ原 ... 58
臨急気 9412D	草津 11:21 11:22 (6)	月ヶ瀬口 ... 15:04
大阪 (10:18) 10:20 (11)	手原 30 33	大河原 11 18 ₃₀
新大阪 ... 24	石部 ... 38	笠置 26 16:00
吹田 ... 26 ₄₅	三雲 45 48 ₃₀	加茂 08 12 (1)
茨木 ... 31 ₃₀	貴生川 ... 55	木津 16:18 ₃₀ 17:02 (8)
高槻 ... 36	甲南 ... 59	佐保(信) ... 07
山崎 ... 41	甲賀 ... 12:04	奈良 17:11 13 (3)
神足 ... 44	柘植 12:11 (12:42) (2)	郡山 ... 18
向日町 ... 47		法隆寺 ... 23
西大路 ... 49 ₃₀		王寺 ... 17:27
京都 10:53 (11:00)		柏原 ... 37
		八尾 ... 41 ₃₀
		竜華(信) ... 43 ₃₀
		平野 46 ₃₀ 50
		天王寺 ... 17:57
		新今宮 ... 18:00
		湊町 18:04 ₃₀ (18:36) (4)

JR運転報 より 運行番号 西大305

記念列車が走るまで

I-9001 麻田 成彦

◎ 自分達の列車を走らせたい

今から6年程前に貸し切りの団体専用列車に乗る機会に巡り会いました。

ルートは

大阪～塚本～北方貨物～京都～奈良～桜井～王寺～湊町

という事でした。

列車に乗るのが好きな私ですが、殆ど知らない人ばかりという事に加えて6時間も乗りっぱなしで退屈するかな...などと少々不安を抱きながら当日を迎えてみると、なんのなんのこれが結構楽しく6時間があっという間に過ぎ去っておりました。

「うーん、これは仲間でやればもっともっと楽しい筈だ、よし...いつの日にか...」

◎ 助役さんの一言で

学生時代のアルバイトで知り合った助役さんとは、私が社会人になってからも指定券を頼んだり等で、付き合いが続いておりました。3年程前のある日その助役さんと会った時、ふとした事から団体列車の話題になり「私もいつか走らせたいと考えている」と言うと、「その時は是非私にやらせてくれ」と言う言葉が返ってきたのでした。

この一言が「列車運転」に向けての大きな支え、そして第一歩になったのでした。

◎ O B 会への提案

89年度のOB会総会(11月)の議題として「列車運転」を取り上げてもらい、ここで事実上のGOサインが出、名目は丁度その頃話題になっていた鉄研創立20?21?周年記念という事になりました。

希望条件としては、

- ・予算は一人8000～12000円程度
- ・普段乗車する事の出来ない貨物線に乗り入れたい
- ・時期は4～6月又は9～11月の日曜日に運転したい
- ・経費が安くて済む車両「エーデル」(定員120名、普通車のみ)、これがダメな場合でも他のジョイフルトレインにしたい

といったものでした。

◎ 交渉難航

まず貨物線への乗り入れについては、JR貨物所有の線路なので乗り入れるのは非常に困難だ、と言う事で「ボツ」になってしまいました。時期と車両については、「エーデル」が予定臨時にも使われる場合が多い事もあって、我々のような企画の列車にはなかなか使えない様子でした。「平日なら出るぞ」と言われるものの、平日では乗客の側が集まる事が困難です。

そうこうしているうちに、頼みの助役さんが異動であの「花博」へ行ってしまうされました。交渉は継続して代わりの方が引継をして頂きましたが、今までの様に頻繁に交渉経過が聞けなくなり、歯がゆい時期がありました。しかし「花博」が終わると助役さんも現場に復帰され、再び担当して頂けるようになりほっとした、と思った時にはもう90年度のOB会総会でした。

◎ 条件を緩和して交渉継続するが・・・

90年度のOB会総会にてこれまでの経過を報告すると共に、実現へ向けての可能性を少しでも高めようと、要求条件を緩和することになりました。結局、時期は「休日ならいつでも良い」、車両も「エーデルにこだわらない」と言う事で交渉を継続することになりました。

「エーデル」以外で定員の少ないジョイフルトレインについては、同じJR西日本の車両でも地元の所属でないと持って来れないとの事だったので、福知山支社所属の「セイシェル」が候補に加わる程度ですが・・・。

ジョイフルトレイン利用の臨時列車は、旅行業者や一般団体等のいわば入札のような形で割当が決まって行くようで、我々のような儲からない案は負けてしまうようです。旅行業者からの申し込みがなく、我々の企画のみという日ができないと、我々にはもう巡ってこないのではないかと思ったものでした。

そしてまた91年度のOB会総会の通知がやってくる時期となりました。

◎ 「ふれあいSUNIN」が使えるぞ!・・・

総会まであと1週間となったある日、助役さんから「4月29日に、米子の車両で ふれあいSUNIN というのを押さえたぞ」と言う電話連絡が入ったのです。やったぞ!と思ったが、私個人としては素直に喜べなかったのです。なぜならこの5月の連休は大変忙しく、仕事で家には帰れないであろう事が既にこの時点でわかっており、その直前の休日なので出勤となる確率が非常に高いであろうと思ったからです。

91年度OB会総会の席上で、この案で行くと決まった時も複雑な思いでしたが、そうも言ってはおられません。JRとの交渉は私なのですから。

◎ 記念列車運転に向かって

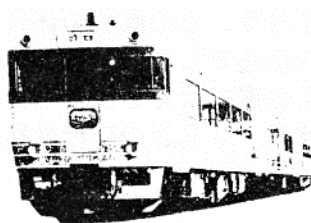
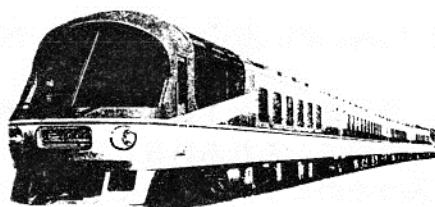
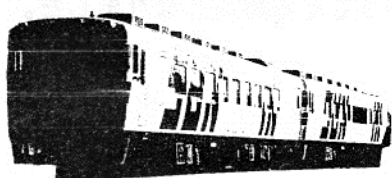
その後は具体化へ向けて運営委員会が月に1度行われ、電話連絡やパソコン通信を使ったデータのやりとりも行ない、OB会会員への正式開催通知が1月末に行なわれたのです。心配していた参加者の集まり具合も順調にのびて、関東地方などの遠方からも参加者が得られ、予想以上の規模のイベントとして開催できる見通しがたってきました。運営委員はJRとのダイヤの交渉や会員との連絡、車内イベントの企画など忙しい日々となりましたが、それも自分たちの企画した列車を走らせることができるという喜びの方が上回り、4月には2回の運営委員会を開催し、細かい詰めを行ないました。

◎ 結びに

長い間お待たせしてしまった上にダイヤ等がぎりぎりまで決まらず、参加者の方には御迷惑をお掛けしましたが、実現できて本当に良かったと思います。どうやら私も参加出来る事となり、ほっとしております。

最後に、大変お世話になりましたJR西日本の黒川助役さんに、この場を借りて御礼申し上げます。

平成4年4月29日



てっけんはじめ物語

F-8092 近藤文夫

大阪電気通信大学鉄道研究会のはじまりは、親分こと藤田貞夫氏がメンバーを集めた5年前（昭和43年・1968年）に始まります。その心は、鉄道模型を始めたいが誰かに教えてもらうにはクラブをつくるのが手っとり早いだろうと思ったからだそうです。彼の趣味は写真ですが、50%がSL、残りの50%が婦人科であります。そこへ100%近くSLがウエイトを占めている吉尾幸太郎氏と、模型が本業で写真はたしなみ程度の私が加わり、構成員3名の鉄道研究会が発足したのであります。

それより直ちに同好会設立のための活動を始めました。その内容は、

- (1) 3人ではあまりに少ないので、名前を借用しただけのユウレイ部員を数名用意した。
- (2) 某大学鉄道研究会の会則を大部分流用した会則の作成。
- (3) 文化会に対していかにも活動しているように見せかける。
たとえば、何も活動していなくても掲示板にポスターを貼るなど。

そして良いことづくめの基本方針を用意して、審議会に望んだのです。その当時は同好会の数が少なく（茶道・化学のみだったと思う）、文化会の増加奨励もあり、特に反対の理由も見つからなかったのか、すんなり一発で認可されてしまいました。この頃はもっと難しいだろうと思います。

このように、文化会同好会鉄道研究会（この名前は部に昇格したときのことを考えて、また他の大学の例にならってつけた）が誕生したのですが、3人ともクラブの運営というようなものにはまったくもって不得手で、かつものぐさであったので、翌年の新入生勧誘まで一切の活動を停止してしまったのです。

新入生は、関戸憲昭氏、阿部豊氏、小川元章氏、村上隆氏の4名が一応定着しました。この中で鉄道が好きで入会したと思えるのは関戸氏一人であって、阿部氏は写真が趣味であるが婦人科専門であり、小川氏はアマチュア無線家だそうであり、村上氏は応援団および体育会系クラブから逃れるために我がクラブを利用し、その義理で6カ月在籍していただけです。

人数は7名になりましたが、これを見てもわかるように、依然内容の薄い活動状況でありました。しかしその中で一人、関戸氏が疑問を感じて、当時会長であった私に突き上げを加えてきたのであります。親分は活動については意見は述べるが行動はおこさない主義であり、幸太郎氏はそのどちらも好まないような、そうでもないような理解し難い人物であったので、私が何かをやらなければならない状況に置かれたのであります。

その当時の我がクラブには大きな目標が二つありまして、一つはクラブボックスを確保すること、もう一つは「部」に昇格すること（予算面で多大の差がある）でありました。そこで活動はすべて文化会本部に対してのアピールを第一に考えて行うことになったのです。

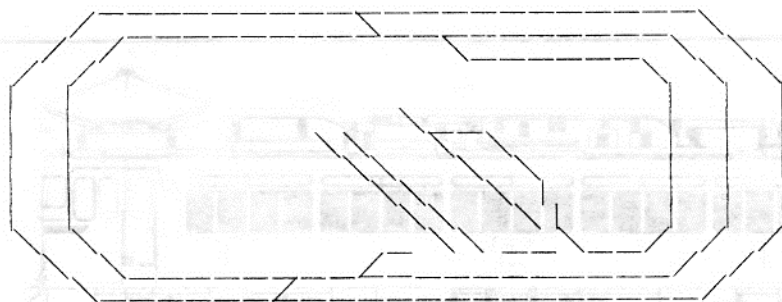
まず手っとり早いところで撮影会を月例にしました。これは都合で行わなくても文化会に対しての報告では決行に化けてしまいます。つぎに文化会の集会には積極的に出席して、目立つように発言します。このため当時の文化会本部からは煙たがられる存在になりました。このようにかなりいい加減なものが多かったのです。

このような状態で夏期合宿を迎えました。場所は天橋立で5泊6日、参加6名でした。合宿はクラブ活動においてカンフル剤のような効果があるらしく、終ってみるメンバーの結束はかなり固くなりました。このときの合宿は大変欲張った内容で、写真については現地でフィルムの現像講習を行いました。ただし条件の悪い中で行うと、現像・定着ムラ・水洗いのときのキズなどかおこったので、次回からは行わないことになりました。そのつぎに模型製作の講習ということで、材料・工具（万力など）を持ち込み、ペーパー製貨車を各自5両製作しました。これは工具の運搬が重かった（私が運んだ）のと、水泳などのレジャーに気をとられて真剣に取り組まなかったもので、これも次回より行わないことになりました。この合宿のときは、不思議と実物に対する研究や突っ込んだ討論会というようなものを企画しようと考えた者はいませんでした。みな、そのようなことがきらいだったのです。

参考までに付け加えると、第1回より合宿の場所は、SLが撮影できて水泳および釣りができて都会的でないこととなっています。つまり遊びの要素が多い合宿です。私は毎回釣竿持参で、このときは手のひら程度のカレイのような正体不明の魚を20匹ほど釣って汁にしたのですが、評判が悪くあまり食べてくれませんでした。この合宿の流行語は「夜這い」でした。

夏期休暇が終了するとすぐに前期試験があり、それが終わるとすぐに大学祭となります。参加第1回目の大学祭では、全紙パネル数枚の写真展示と16.5mmゲージ組立式レイアウトのみで、研究項目は「0」でした。レイアウトは8mmベニヤ板の道床に0.5mmの枕紙を貼りつけ、引抜きレールを打ち付けたものでした。ベニヤ板をジグソーで切抜き、その上に枕紙を貼り付けたのですが、私が知らない間に枕紙の幅や間隔および位置がでたらめな道床が出来上がっていました。その上へけがきなしでレールを打ち付けたのですが、この作業をするのは全員初めての経験なので、3点ゲージを使って直線部分でも脱線してしまう線路になってしまいました。ポイントは私が全部製作しましたが、10番ポイントで設計したものの、10番であっても先端レールの角度がきつかったので効果は半減し、5番ポイント程度のものでなっていました。ヤードの出口にあったY型ポイントは特にひどいもので、3~4番程度の代物になり、F型電機に貨車を連結して通過するとポイント上で貨車が放り出されてしまいました。ポイントマシンは時間がなくて作れず、手動で転換していました。しかしこのようなレイアウトでも、みな単純によろこんで、徹夜で遊んだ者もいました。

当時の在籍車輛は貨車（合宿で作ったスゴいやつ）20輦程度のみで、それに私が持ち込んだペーパー製EF70と、当時1650円のBタンク機関車のみでした。Bタンクの方は部室のどこかで眠っていると思われ、EF70の方は転落事故に幾度かあったため、上まわりは廃棄、下まわりのみが部室に転がっています。（編集部注：その後、下まわりは山内氏がひきとり、フェニックスの真鍮製2次形キットの上まわりを取付けて復活しています。）



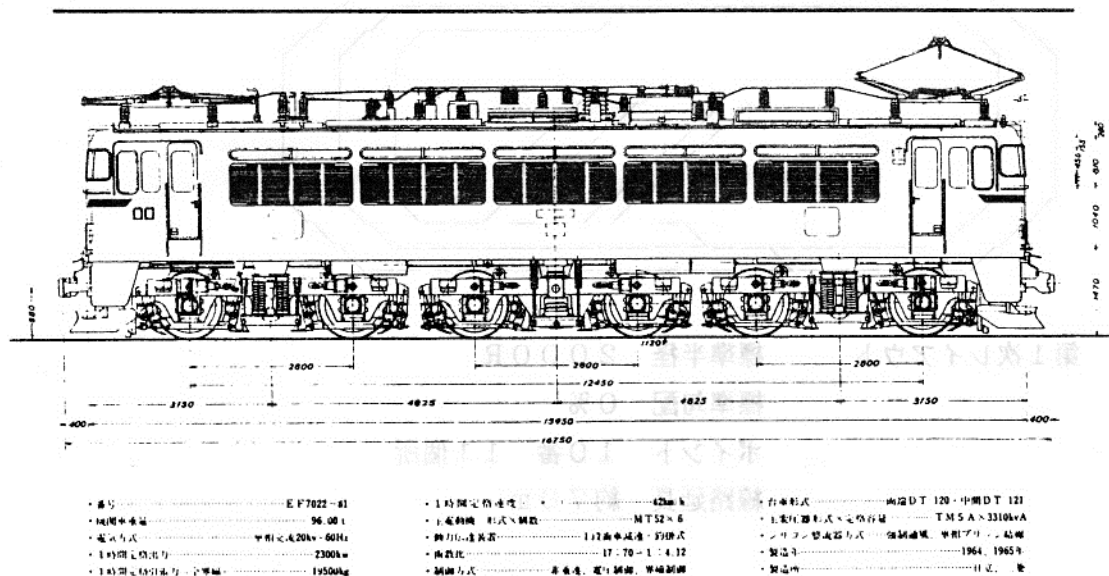
第1次レイアウト	標準半径	2000R
	標準勾配	0%
	ポイント	10番 11箇所
	線路延長	約70m

この第1次レイアウト製作当時は部室がなかったので、作業の大部分は部員のアパートで行われました。小川氏の住んでいた三和荘の2階では深夜にパネル製作のため、一寸角の杉材に三寸半の釘を打ち込む音が響き渡りました。線路の方は大部分は阿部氏の福井荘、ポイントは三和荘、写真のパネルは大和郡山の親分の別宅が使用されました。文化会にはC-203あたりの部屋を借用していることにしていましたが、休憩は近所の茶店、倉庫は三和荘を使っていました。

それからしばらくして、同好会共同で一部屋もらえましたが、映研等に独占化され、また軽音楽の近所でうるさかったのも、同好会間の会合以外にはほとんど使用しませんでした。この頃には同好会の数も7~8に増えており、同好会間で文化会に対する秘密協定のようなものが話し合われましたが、結局実現せず、部昇格部室確保等は個別に行われました。

私達が作り上げた鉄研の特徴としては、民主的運営であること（これは一方統一面においては欠点であり独裁制の方が優れている）、部員の大半は鉄道に対してさほど興味をもっておらず何のために入部しているのかわからない。（実際は鉄道以外において明確な理由を持っているものもいる）そして卒業したとき、鉄研にいて良かったと思えるなにかを持っていることです。

以上、思い付くままに書いてみましたが、これ以後は現在在籍している人でも知っているはずですのでこのあたりで終わらせてもらいます。



大阪電気通信大学 鉄道研究会 歴史年表

製作：廣瀬 渉

編集：山内 祐

23周年記念列車にあわせて鉄道研究会の変遷を年表にしてみようという企画がもちあがり、過去の記録を調査してなんとかまとめることができました。資料としてはOB個人の保管している鉄道研究会発行の機関誌「まくらぎ」およびRICOB事務局発行の「RICOB(リガ)」です。この2つを主体におぼろげな記憶も参考にして23年間の歴史年表を製作しました。ピックアップした項目としては、

1. 会長の就任
2. 合宿の場所・内容
3. 大学祭の展示内容
4. 模型レイアウトの変化
5. 機関誌「まくらぎ」の発行
6. その他クラブにとって画期的な行事など
7. OB会行事

このようなものになりました。定例撮影会についてはほとんど記録がなく、調査すべき元資料がありません。大学の部室内になにか保管されているかもしれませんが、今回の編集には間に合いませんでした。なお、OB会主催の撮影会は近年のことですので、開催場所等を記録しました。

日時については、出典となる機関誌類の記事に書かれている日付を引用しているのが基本ですが、時期によっては推定によるものもあります。今後、会員の情報提供によって訂正され、より確実なものにしていければいいと考えています。

歴代部長 一覧

代	就任年度	氏 名	代	就任年度	氏 名	代	就任年度	氏 名
1	1968/S43	近藤 文夫	9	1976/S51	大野省一郎	17	1984/S59	田中 清志
2	1969/S44	関戸 憲昭	10	1977/S52	中村 正治	18	1985/S60	吉良 克巳
3	1970/S45	阿部 豊	11	1978/S53	中内 俊幸	19	1986/S61	中道 和則
4	1971/S46	池田 八郎	12	1979/S54	廣瀬 渉	20	1987/S62	山田 重俊
5	1972/S47	佐藤 哲也	13	1980/S55	杉江 俊幸	21	1988/S63	坂井 雄大
6	1973/S48	山内 祐	14	1981/S56	水上 龍一	22	1989/H 1	沼田 良勝
7	1974/S49	沼崎 治彦	15	1982/S57	前田 俊郎	23	1990/H 2	栗田 厚志
8	1975/S50	佐野 博一	16	1983/S58	三宅 常正	24	1991/H 3	三瀬 貞樹

年月日	内 容	出 典
1968.12	創設(藤田、吉尾、近藤の3氏による)	まぐさ20号上p6
1968.12.01	同好会として OECU RIC発足	RICOB 8号
1969.04	会長 近藤 文夫	まぐさ20号上p6
1969.04	新入生募集開始、鉄道研究会としての活動開始	RICOB 8号
1969.05	初撮影会 竜華機関区	まぐさ 2号上p3
1969.08	夏合宿 天の橋立 模型制作、フィルム現像講習	RICOB 2号
1969.11	第1次レイアウト1期工事完了	まぐさ20号上p6
1969.12	会長 関戸 憲昭 就任	まぐさ 2号
1970.08	夏合宿 能登	RICOB 2号
1970.12	まくらぎ 創刊号 発行	まぐさ 2号p3
1970.12	クラブに昇格	RICOB 8号
1970.12.01	会長 阿部 豊 就任	まぐさ 2号上p2
1971.08	夏合宿 信濃木崎 かつら館 大糸線沿線調査	RICOB 2号
1971.11	まくらぎ 2号 発行	まぐさ 2号
1971.11	第2次レイアウト、1期工事完了	まぐさ10号
1971.11.20	まくらぎ 臨時増刊 発行 大糸線	
1971.12.01	会長 池田 八郎 就任	まぐさ 4号p4
1971.12.20	まくらぎ 3号 発行	まぐさ 3号
1972.03	春合宿 長門市 討論セミナー	RICOB 2号
1972.07.15	まくらぎ 4号 発行	まぐさ 4号
1972.08	夏合宿 猪苗代 会津只見撮影 セミナー	RICOB 2号
1972.11.15	まくらぎ 5号 発行	
1972.12.01	会長 佐藤 哲也 就任	まぐさ
1973.06.01	まくらぎ 6号 発行	まぐさ 6号
1973.08	夏合宿 福島高松 志布志日南大隅調査	RICOB 2号
1973.08.01	まくらぎ 7号 発行	まぐさ 7号
1973.10.25	まくらぎ 8号 発行 特集「志布志湾の鉄道」	まぐさ 8号
1973.11.01	第2次レイアウト運用終了	まぐさ20号下p8
1973.11.05	まくらぎ 9号 発行	まぐさ 9号
1973.12.01	会長 山内 祐 就任	まぐさ12号
1974..	第3次レイアウト着工	まぐさ20号下p8
1974.03.26	春合宿 信濃木崎 かつら館	
1974.05.28	まくらぎ10号 発行 5周年記念号	まぐさ10号
1974.06.24	まくらぎ11号 発行	まぐさ11号
1974.08.23	夏合宿 旭川 宗谷撮影、札幌見学	RICOB 2号
1974.11	仮レイアウトで学祭を行なう	まぐさ20号下p10
1974.11.12	まくらぎ12号 発行	まぐさ12号
1974.11.14	まくらぎ 別冊 「新幹線博多開業特集」発行	
1974.12.01	会長 沼崎 治彦 就任	まぐさ20号下p10

年月日	内 容	出 典
1975.03.25	春合宿 信濃木崎 かつら館	RICOB 2号
1975.06.01	まくらぎ13号 発行	まくらぎ13号
1975.08	夏合宿 陸前高田 大舟渡線調査	RICOB 2号
1975.11	第3次レイアウト1期工事完了。手打ち、所々付き。	まくらぎ20号p10
1975.12.24	国鉄蒸気機関車最終列車、夕張線	
1975.11	第3次レイアウト、1期工事完了	まくらぎ14号
1975.11.14	まくらぎ14号 発行	まくらぎ14号
1975.12.01	会長 佐野 博一 就任	まくらぎ20号p10
1976.03	春合宿 信濃木崎 かつら館	RICOB 2号
1976.3	国鉄の蒸気機関車の最期、追分入れ換え	
1976.05	TMS「私の鉄道」に第3次レイアウト掲載	まくらぎ15号
1976.05.16	某女子大と合ハイを初めて行なう	まくらぎ15号
1976.06.02	まくらぎ15号 発行	まくらぎ15号
1976.08	夏合宿 四国、由岐 ミニナル	RICOB 2号
1976.10.30	まくらぎ16号 発行	まくらぎ16号
1976.11.	第3次レイアウト、機関区、Aヤード完成	まくらぎ20号p11
1976.12.01	会長 大野 省一郎 就任	まくらぎ16号
1977.03.25	春合宿 信濃木崎 かつら館	RICOB 2号
1977.07.09	まくらぎ17号 発行	まくらぎ17号
1977.08.20	夏合宿 東唐津 筑肥、唐津調査。山口先生初参加。	まくらぎ18号
1977.11.04	まくらぎ18号 上下巻 発行	まくらぎ18号
1977.12.01	会長 中村 正治 就任	まくらぎ19号
1978.03.23	春合宿 信濃木崎 かつら館	RICOB 2号
1978.07.01	まくらぎ19号 発行	まくらぎ19号
1978.08.22	夏合宿 猪苗代 東北本線撮影、福島機区	RICOB 2号
1978.11.01	まくらぎ別冊 発行 昭和52年度夏合宿「北九州」	まくらぎ別冊s52
1978.11.02	まくらぎ20号 発行 上下巻	まくらぎ20号
1978.12.01	会長 中内 俊幸 就任	まくらぎ20号p41
1979.	関西学生鉄道研究会連盟に加盟	?
1979.03	春合宿 信濃木崎 かつら館	RICOB 2号
1979.08	夏合宿 十勝池田 地北、土幌、広尾調査、ミ	RICOB 2号
1979.09	まくらぎ21号 発行	まくらぎ21号
1979.11.01	まくらぎ22号 発行	まくらぎ22号
1979.12.01	会長 廣瀬 渉 就任	まくらぎ22号p5

年 月 日	内 容	出 典
1980.03	春合宿 信濃木崎 かつら館	RICOB 2号
1980.05	レイアウト修理会を行なう。この年以來恒例化。	
1980.05	年間活動テーマ「関西民鉄の高架化」を定める	
1980.07.05	まくらぎ23号 発行	まくらぎ23号
1980.08.23	夏合宿 琴平 撮影会、鉄道ヲリ、ミ	RICOB 2号
1980.11.01	まくらぎ24号 発行 特集「関西民鉄の高架化」	まくらぎ24号
1980.11.01	レイアウト、単線シーナリー付き支線第1期工事	まくらぎ25号p42
1980.11.02	第1回OB会総会開催	まくらぎ25号p43
1980.12.01	会長 杉江 俊幸 就任	まくらぎ25号p48
1981.03.27	春合宿 信濃木崎 かつら館	RICOB 2号
1981.05.06	まくらぎ25号 発行	まくらぎ25号
1981.06.20	まくらぎ26号 発行 上下巻	まくらぎ26号
1981.08.21	夏合宿 大館 土崎工場見学	RICOB 2号
1981.10	まくらぎ 別冊 発行 団体輸送	
1981.11.01	まくらぎ27号 発行	まくらぎ27号
1981.11.01	まくらぎ発行 特集「S54夏合宿特集号 北海道	
1981.12.01	会長 水上 龍一 就任	まくらぎ27号p73
1982.	レイアウト高架線完成?	まくらぎ42号
1982.03	春合宿 信濃木崎 かつら館	RICOB 2号
1982.05.15	まくらぎ28号 発行	まくらぎ28号
1982.07.01	まくらぎ29号 発行	まくらぎ29号
1982.08	夏合宿 博多 ミーティング、撮影会、個人レポート	RICOB 2号
1982.09.22	麻田成彦 国鉄全線完乗 会員初	
1982.11	全現役会員数 39名となる	RICOB 1号
1982.11.01	まくらぎ30号 発行 特集「九州の鉄道」	まくらぎ30号
1982.12.01	会長 前田 俊朗 就任	まくらぎ31号p1
1982.12.15	OB会 機関誌 R I C O B 1号 発行	RICOB 1号
1983.03.23	春合宿 信濃木崎 かつら館	RICOB 2号
1983.07.01	まくらぎ31号 発行	まくらぎ31号
1983.07.21	R I C O B 2号 発行	RICOB 2号
1983.08.20	夏合宿 札幌	まくらぎ32号
1983.11.01	まくらぎ 別冊「京阪電車」	
1983.11.01	まくらぎ32号 発行	まくらぎ32号
1983.12.01	会長 三宅 常正 就任	まくらぎ34号p1

年月日	内 容	出 典
1984.01.01	まくらぎ33号 発行	まくらぎ33号
1984.03.23	春合宿 信濃木崎 かつら館	まくらぎ34号p3
1984.07.10	まくらぎ34号 発行	まくらぎ34号
1984.08.26	夏合宿-阿仁合線(比立内)	まくらぎ35号
1984.11.01	まくらぎ35号 発行	まくらぎ35号
1984.11.01	まくらぎ特集「国鉄の将来・II-加線」 発行	
1984.12.01	RICOB 3号 発行	RICOB 3号
1984.12.01	会長 田中 清志 就任	まくらぎ36号
1985.01.01	まくらぎ36号 新年号 発行	まくらぎ36号
1985.03.08	春合宿 かつら館	まくらぎ37号
1985.06.15	まくらぎ37号 発行	まくらぎ37号
1985.09.23	夏合宿 長崎	まくらぎ38号
1985.11.02	まくらぎ38号 発行	まくらぎ38号
1985.11.02	まくらぎ特集「トクきつぷ」 発行	
1985.11.12	RICOB 4号 発行	RICOB 4号
1985.12.01	会長 吉良 克巳 就任	まくらぎ39号
1985.12.16	RICOB 5号 発行	RICOB 5号
1986.01.01	まくらぎ39号 発行	まくらぎ39号
1986.03.14	春合宿 かつら館	まくらぎ40号
1986.03.20	0B春合宿 信濃木崎 かつら館	RICOB 6号
1986.06	レイアウト修理会	まくらぎ41号
1986.07.10	まくらぎ40号 発行 上下巻	まくらぎ40号
1986.08.21	夏合宿 函館	まくらぎ41号
1986.10.01	RICOB 6号 発行	RICOB 6号
1986.11.01	まくらぎ41号 発行	まくらぎ41号
1986.12.01	会長 中道 和則 就任	まくらぎ42号
1987.01.01	まくらぎ42号 発行	まくらぎ42号
1987.03.13	春合宿 かつら館	まくらぎ43号
1987.04	新入会員1人!工学部移転のためか	まくらぎ43号
1987.06.23	まくらぎ43号 発行	まくらぎ43号
1987.07.11	まくらぎ44号 発行	まくらぎ44号
1987.08.27	夏合宿 四国松山	まくらぎ44号
1987.11.01	まくらぎ45号 発行	まくらぎ45号
1987.12.01	会長 山田 重俊 就任	

年月日	内 容	出 典
1987.12.05	777部室を座敷に改造?	まぐ546号
1988.01.01	まくらぎ46号 発行	まぐ546号
1988.03.10	R I C O B 7号 発行	R I C O B 7号
1988.03.11	春合宿 かつら館	まぐ547号
1988.05.22	学鉄連 新歓クイズで2年連続最下位	まぐ547号
1988.06.11	まくらぎ47号 発行	まぐ547号
1988.08.25	夏合宿 稚内	まぐ548号
1988.11.01	まくらぎ48号 発行 上下巻	まぐ548号
1988.12.01	会長 坂井 雄大 就任	まぐ549号
1989.01.01	まくらぎ49号 発行	まぐ549号
1989.03.10	春合宿 かつら館	まぐ550号
1989.06.01	まくらぎ50号 発行 上下巻	まぐ550号
1989.08.24	夏合宿 宮崎・青島	まぐ551号
1989.09.22	麻田成彦 日本の鉄道全線完乗 会員初	
1989.11.01	まくらぎ51号 発行	まぐ551号
1989.11.28	学鉄連 脱会決定	まぐ552号
1989.12.01	会長 沼田 良勝 就任	まぐ552号
1990.01.01	まくらぎ52号 発行 上下巻 (WPを初採用)	まぐ552号
1990.03.15	R I C O B 8号 発行	R I C O B 8号
1990.03.15	R I C O B 9号 発行	R I C O B 9号
1990.03.16	春合宿 かつら館	まぐ553号
1990.06.01	まくらぎ53号 発行	まぐ553号
1990.06.01	全現役会員数 7名となる	まぐ553号
1990.11.01	まくらぎ54号 発行	まぐ554号
1990.12.01	会長 栗田 厚志 就任	まぐ554号
1991.01.01	まくらぎ55号 発行	まぐ555号
1991.01.10	OB会、運営委員会制度導入	R I C O B 10号
1991.01.10	R I C O B 10号 発行	R I C O B 10号
1991.01.20	第 1回OB会撮影会、京阪淀	R I C O B 10号
1991.02.17	第 2回OB会撮影会、片上鉄道	R I C O B 11号
1991.03.15	春合宿 かつら館	
1991.03.17	第 3回OB会撮影会、小海線、現役とジョイント	R I C O B 11号
1991.05.19	第 4回OB会撮影会、近鉄長谷寺	R I C O B 11号
1991.06.01	まくらぎ56号 発行 上下巻	まぐ556号
1991.06.01	修理会中止	まぐ556号
1991.06.01	全現役会員数 9名となる	まぐ556号

年月日	内 容	出 典
1991.06.16	第 5回OB会撮影会、叡山電鉄	RICOB11号
1991.08.23	夏合宿 大歩危	まくらぎ56号
1991.10.10	R I C O B 11号 発行	RICOB11号
1991.10.19	第 6回OB会撮影会、只見線	RICOB11号
1991.11.01	まくらぎ57号 発行	まくらぎ57号
1991.11.10	R I C O B 12号 発行	RICOB12号
1991.12.01	会長 三瀬 真樹 就任	まくらぎ57号
1992.01.01	まくらぎ58号 発行	まくらぎ58号
1992.02.09	第 7回OB会撮影会、J R 関西線 近鉄北勢線	RICOB13号
1992.03.13	春合宿 かつら館	
1992.03.30	R I C O B 13号 発行	RICOB13号
1992.04.29	O.E.C.U. R I C 創立23周年記念列車運転	RICOB14号

夏合宿地 一覧

年 度	地 名	年 度	地 名	年 度	地 名
1 1968/S43		9 1976/S51	由岐	17 1984/S59	比立内
2 1969/S44	天の橋立	10 1977/S52	東唐津	18 1985/S60	長崎
3 1970/S45	能登	11 1978/S53	猪苗代	19 1986/S61	函館
4 1971/S46	信濃木崎	12 1979/S54	十勝池田	20 1987/S62	松山
5 1972/S47	猪苗代	13 1980/S55	琴平	21 1988/S63	稚内
6 1973/S48	福島高松	14 1981/S56	大館	22 1989/H 1	青島
7 1974/S49	旭川	15 1982/S57	博多	23 1990/H 2	山口
8 1975/S50	陸前高田	16 1983/S58	札幌	24 1991/H 3	大歩危

編集後記

RICOB (リコブ) は、OB会の 機関紙 として1982年(S57)12月15日に第1号が発行されました。そのころは鉛筆の手書き原稿を使っていたが、1988年(S63)3月10日発行の第7号よりパソコンのワープロソフトを使った原稿になり、1990年(H2)3月15日発行の第8号から、A4サイズにインクジェットプリンタで印刷という形式に落ち着きました。

今回の大阪電気通信大学鉄道研究会創立23周年記念列車特集号(長い!)を企画するにあたり、最初は従来のRICOB程度の2~3枚のパンフレットを考えていたのです。しかし、運営委員会で話し合う中で、年表の作成をしようということになり、さすがに23年分となるとかなりの量になり、パンフレットのものではすまなくなってきました。また、列車に関する情報もなるべく多くしたいので、結局RICOBはじまって以来、最初の 機関誌 となった次第であります。

記念列車関連記事として、企画段階からJRとの交渉窓口になっていただいている麻田氏に、これまでのいきさつを書いていただきました。この企画がもちあがったときには、交渉がこんなに難航するとは考えられず、20周年記念として走らせる予定でした。われわれの要求する条件がそんなにきびしいものであるとは思えなかったのですが、列車確保は困難をきわめ、企画発表後1年また1年と何の進展もなく過ぎて行きました。

このままでは計画倒れになってしまうのではないかという不安も深まり、運営委員もあせりの色が出てきました。鉄道研究会らしいユニークな経路や列車で走らせたいと計画していましたが、実現困難では意味がないので、とりあえず走らせることを前提とするように条件を大幅に緩和したところ、今回の列車が確保できたのです。

本来なら20周年とか25周年とかのキリのいいところでやりたい企画ですが、列車が確保できたチャンスを逃すことはないということで、23周年という中途半端な年になってしまいました。しかし、こだわるほどのことでもないので、運営委員一同この列車の実現に向けて努力することになりました。

機関紙 だったRICOBも、機関誌 として発展し、ますます充実させていきたいと考えています。幸いにも印刷関係の行ないやすい環境にありますので、できれば今後も十数ページほどの機関誌を、年1回位発行できるように努力していきたいと思っています。

本日はご乗車いただきありがとうございました。

(ヤマ)

